新富町の埋蔵文化財

遺跡詳細分布調査報告書

1982

宮崎県児湯郡新富町教育委員会

序

最近、時代の要請に伴い、町内各地で開発行為が進められるようになり、宅地の造成、農地の基盤整備等のため、埋蔵文化財が出土する事例が多くなってきております。

当町は、《国指定史跡》新田原古墳群をはじめ、《県指定史跡》富田古墳群等埋蔵文化財が数多く散在する地域でもあり、これらの遺跡分布調査は、文化財の保護の上から、緊急を要する事業でありました。

この度、文化庁および宮崎県教育委員会の御指導により、遺跡の分布調査を実施いたしましたところ、数多くの遺跡や遺物などを発見するなど、本町における先土器・縄文・弥生・古墳及び歴史時代の遺跡の分布状況を確認することができ、歴史の解明に一つの手がかりを得るという成果の中に終了することができました。

ここに調査の実施にあたり、調査員各位をはじめ、町民の皆様方の御理解と御協力に対し、厚く御礼申し上げます。

なお、この調査報告書が、社会教育・学校教育ならびに文化財保護のため、活用いただけることを期待いたします。

新富町教育委員会

教育長　高松昌波

例　　言

1．本書は、昭和56年度に文化庁・県教育委員会の補助を受けて新富町教育委員会が実施した遺跡詳細分布調査の報告書である。

2．本調査は、埋蔵文化財に関する調査であり、内容は当町全域を対象とする埋蔵文化財包蔵地調査カード及び遺跡分布地図の作成で、原薄は新富町教育委員会に保管されている。

3．本書の構成は、遺跡地名表・主要遺跡概説・付図の遺跡分布地図から成り、さらに総説の項を設け、地理的環境、歴史的環境を述べ、理解の一助とした。

4．調査の組織は、下記のとおりである。

調　査　員	石　川　恒太郎	宮崎県文化財審議委員
〃	日　高　正　晴	〃
〃	遠　藤　　尚	宮崎大学教育学部教授（地質）
〃	藤　原　宏　志	宮崎大学農学部助教授（プラントオパール）
補助調査員	有　田　辰　美	
〃	桑　畑　　亮	
調査指導	北　郷　泰　道	県文化課主事

事務局

新富町教育委員会

教　育　長	高　松　昌　波
社会教育課長	新　名　正　垣
〃 課長補佐	山　本　繁　幸
主事(担当)	松　原　富美彦

5．分布調査は、有田、桑畑、松原が行ない、総括を石川、日高が行った。

6．遺跡地名表の作成には、次のように、大字を中心に4つに分け、地区ごとに遺跡番号

を整理した。4桁目には、地区番号、1～3桁は、遺跡番号をあらわす。古墳群については、字ごとに集め、前方後円、方、円墳の別にその数を明記した。

上新田地区	1,000番台	大字新田の北半分（いわゆる上新田地区）
下新田地区	2,000	大字新田の南半分及び大字伊倉
富田地区	3,000	大字上・下富田
日置・三納代地区区	4,000	大字日置・三納代

7．地名表内の略号については下記の通りである。

（県）988→県遺跡番号 988

51－1→新富町 昭和51年分布調査番号

S→昭和

16→60→埋蔵文化財包蔵地分布地図（宮崎）の遺跡番号

8．遺跡分布地図の枠付については、昭和57年3月現在において確認された遺跡の範囲であり、その枠外についても遺構等の存在が予想される。

9．（附）遺跡分布地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地図である。

（承認番号）昭57九複、第89号

10．本書の執筆には、「新富町の地質と地形の概括」を宮崎大学教授遠藤尚氏に御執筆いただき、その他については有田が当り、実測・トレース等には、有田・桑畑が分担して行なった。

総　目　次

I　総　説

1．新富町の地質と地形の概括……1

2．新富町の歴史的環境……3

II　埋蔵文化財包蔵地地名表

III　主要遺跡概説

IV　まとめ

1．調査を終了して……24

2．新富町関連文献録……25

附図　新富町遺跡分布地図

挿　図　目　次

第1図　日向ローム層の柱状断面図（平伊倉北方）……1

第2図　新富町の地形区分……2

第3図　原口遺跡採集遺物……15

第4図　一丁田遺跡採集遺物……16

第5図　藤山迫遺跡採集遺物……17

第6図　園田遺跡採集遺物……18

第7図　今別府A遺跡採集遺物……20

第8図　今別府出土土器（弥生式土器集成所載）……20

第9図　竹淵A遺跡採集遺物……21

第10図　竹淵C遺跡採集遺物……22

第11図　竹ヶ山城跡見取図……23

第12図　縄文土器実測図、拓影……29

第13図　弥生土器・土師器実測図、拓影……29

第14図　須恵器実測図、拓影……30

第15図　須恵器（瑞）
壺形土器口縁、実測図……31
第16図　石鏃・石匙・鉄鏃・石包丁実測図……32
第17図　旧石器類実測図……32
第18図　石錘・磨石・石皿実測図……33
第19図　石斧・石剣実測図……34

図　版　目　次

1．　①今別府出土壺形土器……35
②塚原一字一石塔……35
③竹ヶ山城跡（上空より）……35
2．縄文（押型文、条痕文）土器……36
藤掛B、向原、新山、一丁田、音明寺、丸尾A・B
原口遺跡採集
3．縄文・弥生土器
藤山迫、東小牟田、園田、今別府、奥埼遺跡採集……37
4．土師・須恵器
竹淵A・C、太郎兵衛ヶ迫、上園遺跡採集……38
5．旧石器類
新田原B、平伊倉A、丸尾B、山之坊上遺跡採集……39
6．石鏃類（打製・磨製石鏃、石匙）……39
藤掛A・丸尾B、西牧、赤松遺跡採集、他
7．打製石器類、石斧、石錐……40
原口、竹淵A、新田原B、木戸、坂之上遺跡採集他
8．打製石器、磨製石器類、貽刃磨製石斧、石包丁、石剣、石錘…41
向原、鵜戸川、花園、通山、藤掛B遺跡採集

Ⅰ 総　　説

1．新富町の地質と地形の概括

2．新富町の歴史的環境

1．新富町の地質と地形の概括（宮崎大学教育学部　遠藤尚）

新富町教育委員会の依頼により、遺跡詳細分布調査地域における地形・地質の調査結果を報告する。1982年２月７・21の両日に行った現地調査に基づき、４万分の１空中写真の実体視による判読結果を、２万５千分の１地形図に記入・整理したものが１図である。

宮崎平野を構成する平坦面は、新しいものからⅠ～Ⅷの８面群に分けられる。最低位のⅠ面は沖積面であり、Ⅱ～Ⅷの諸面は顕著な段丘地形を示している。最高位のⅧ面は調査地域には分布していない。Ⅶ面は茶臼原面、Ⅵ面は三財原面、Ⅴ面は新田原面である。以上の諸面は谷に刻まれて断片化しつゝあるが、かなり広い範囲にわたって分布している。開析の程度は古いもの程大である。Ⅵ～Ⅱの諸面は、上記の諸面を刻む谷に沿って分布している。それぞれ特有の火山灰層を乗せていることによって識別されるが、今回はその一つ一つの確認をしていない（２図）。

以上の段丘は、緩く傾いた基盤の宮崎層群の上にほぼ水平に乗る、それぞれに固有の段丘砂礫層を持っており、所によっては基盤との間に、礫層・砂層・泥層よりなる厚い地層が挾在する。

沖積面は、一ッ瀬川に沿う低地と海岸の低地、および段丘を刻む谷の床を作っている。一ッ瀬川に沿っては、１～1.5ｍの低い崖で境された３段の面があり、それぞれ、旧（ふる）い水路跡と見なされる低所と、旧い自然堤防状の高まりとを伴っている。それらの分布は、川口近くでは、三角洲状のパターンを示すようになる。

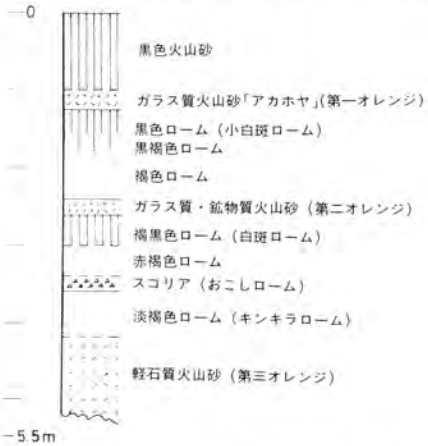
海岸の低地は、３～４列の砂丘と、その間に挾まる低所とからなり、一ッ瀬の川口部はその低所の一つに広がって、ラグーンを形成している。砂丘のうち送信所のあるものは、海抜10ｍを越えているので、その下に恐らくは古い堆積物が埋まっているものと予想しているが、未確認である。また、これらの砂丘列の前後関係や、前記した一ッ瀬川に沿う３段の河床面との関係も、今の所決定できない。

以上に述べた諸地形面と、その上に分布する遺跡・遺物との関係は、大変興味深いが、その解明は今後の問題として残された。

終りに、今回の調査に当って色々とお世話いただいた新富町教育委員会社会教育課松原富美彦および有田辰美の両氏にお礼申し上げる。

（1982年３月７日）

１図



日向ローム層の柱状断面図（平伊倉北方）

2図　新富町の地形区分

1：Ⅶ面(茶臼原面)　2：Ⅵ面(三財原面)　3：Ⅴ面(新田原面)
4：Ⅳ～Ⅲ面　5：Ⅱ面　6：Ⅰ(沖積)面と丘陵との境界　7：沖積面上の崖
8：沖積面上の高まりの縁　9：自然堤防および丘陵斜面下端の小扇状地または麓屑面　10：古い(？)砂丘　11：新しい(？)砂丘　12：湿地　13：市町堺

2．新富町の歴史的環境

新富町には、北西部の洪積台地を始め、鬼付女川水系、日置川水系、一ッ瀬川水系に発達する段丘面などの町内至る所より、土器、石器等が表採されてきており、近年、先土器（旧石器）時代の遺物が畦原を中心に北部の台地より採集され、数少ない同時代の資料が報告されている。

縄文時代について、昭和52年大字新田字出口に押型文を共伴する集石遺構が確認され、藤掛、向原等に同様の類例が加わり、赤ホヤ層の下から出ることが知られるようになった。また藤山迫、原口遺跡には、塞ノ神系等が出土している。

弥生時代については、以前より相当数の遺物が表採されており、中でも日置字今別府出土とされる壺型土器や、稲作を中心とした農耕を示す道具としての石包丁も三納代字江ノ口、新田字祇園原、三納代字園田等から出土している。また、石神、檍遺跡と同様、砂丘列上にこの時代の遺跡が存在することも一つの特徴であり、昭和56年２～３月に発掘調査された鐙遺跡には、円形の住居地及びＶ字状溝が確認され、扁平片刃石斧、穿孔具、蓋型土器、甕型土器等が出土しており、昭和56年12月に発掘調査された新田原遺跡では、住居跡、貯蔵穴が確認され、中期～後期にかけての資料を加えている。

古墳時代については、全国でも有数の密集地とされる、西都原、持田、川南、茶臼原、本庄古墳群などで構成される古墳群の一画をしめる新田原、富田古墳群があり、新田原古墳群の一部については、昭和14年３月に発掘調査されており、富田古墳群については、その一画を構成していたと思われる鐙古墳が昭和56年２～３月に発掘調査され、蛇行剣等を出土している。またこの時代の住居跡として、日置の藤掛遺跡が調査され、ほぼ正方形の住居跡が発掘されている。

歴史時代についての遺跡は、竹淵の経筒や塚原の経塚（一字一石塔）が知られており、城跡としては、上城趾、下城趾が知られているが、伊東氏の富田城が何づれにあたるかは不明である。「日向地誌」に寺跡とされるものが22ヶ所紹介されていて、これらの中、寺域設定し得るものは常林寺跡、本蓮寺跡等、数ヶ所を数えるにとどまり、時代については中世末から近世にかけてのものと思われる。奈良、平安時代については、新田字尾小原の工事中に出土した蔵骨器等が相当するものと思われるほか、明確な遺跡は発見されていないが、「建久図田帳」「宇佐大境」等から倍木（へき）（日置）30町、宮ノ頸30町、下富田荘 130町等が記載されていることからそれ相当の遺跡の存在が予見される。また字名に弁指、弁指平があり、三納代の中心的位置をしめることやこの北方に城之下という字名があることから、弁済使等の館跡等が考えられるが、明確な資料はない。

鎌倉、室町時代の当域は、平島氏、田島氏、伊東氏及び島津氏の事蹟が散見され、それらの館跡、城跡及び寺跡等の関連の遺跡の検出も文献等に併せ、今後追求される必要がある。

II 埋蔵文化財包蔵地地名表

上新田地区　　1001～

下新田地区　　2001～

富 田 地 区　　3001～

三納代・日置地区　4001～

上新田地区　1001～1023

遺跡番号	名　称	所　在　地	種　別	時　代	文　献	備　考
1001	新田原古墳群	大字新田字塚原ほか	古墳	古墳時代	11、13	S.19.11.13 国指定

（号数）

1．2	大字新田字塚原	前方後円1円1	23	
3～6．201	大字新田字竹ヶ山	前方後円1円4	〃	
7．8	大字新田字開元	円2	〃	
9．10	大字新田字弓場迫	円2	〃	
11～13	大字新田字銀代ヶ迫	円3	〃	
14～18	大字新田字谷川	円5	〃	
19～27	大字新田字小堤	円9	〃	
28～30	大字新田字山之坊	前方後円1円2	11，23	
31～37．202．203	大字新田字七又木	前方後円1円8	23	
38～41	大字新田字棚ヶ迫	円3円1	〃	
42．44	大字新田字元牧神	前方後円1方1	11，23	大正14調査消滅
43	大字新田牧神	前方後円1	〃	〃
45	大字新田字石船	前方後円1	〃	〃
46．47	大字新田字井手之内	前方後円1円1	23	
48～55．204	大字新田字古開	前方後円2円7	〃	号外1
56～69	大字新田東俣	前方後円6円8	〃	
70～84	大字新田字谷畔	円15	〃	79不明，号外1
85～114．210．211	大字新田字祇園原	前方後円1円28	〃	113を除く
115～129．136．137	大字新田字曲久保	円15　方1	〃	130～135，なし
138．139	大字新田字栗別府	前方後円1方1	〃	号外3
140～164．206	大字新田字原口	円26	〃	
165～171．205	大字新田字瀬戸口	円7	〃	号外1
172～173．209	大字新田字新開	円3	〃	
174．207	大字新田字竹淵	円2	〃	
208	大字新田字八幡上	円1	〃	
214	大字新田字下川	円1	〃	
176～200．113．213	西都市大字石松祇園之上	前方後円4　円22	〃	175，なし，181破損

遺跡番号	名　称	所　在　地	種　別	時　代	文　献	備　考
1002	古開遺跡	大字新田字古開	古墳	古墳時代		
1003	茶碗山窯跡	大字新田字井出之内	窯跡	近世	22	
1004	花園遺跡	大字新田字花園	散布地	弥生時代		
1005	向原遺跡	大字新田字向原	散布地	縄文～弥生時代		集石あり
1006	藤山迫遺跡	大字新田字藤山迫	散布地	縄文時代		
1007	新田原Ｂ遺跡	大字新田字新田原	散布地	縄文～古墳時代		
1008	新田原Ａ遺跡	大字新田字新田原	集落跡他	先土器～弥生時代		Ｓ56発掘調査（県）985
1009	勘大寺遺跡	大字新田字勘大寺	散布地	縄文～古墳時代		集石あり
1010	一丁田遺跡	大字新田字一丁田	散布地	縄文時代		
1011	鍋山遺跡	大字新田字鍋山	散布地	弥生時代		51－2（県）986
1012	上別府Ａ遺跡	大字新田字上別府	散布地	弥生時代		
1013	上別府Ｂ遺跡	大字新田字上別府	散布地	弥生時代		
1014	瀬之口遺跡	大字新田字瀬之口	散布地	弥生時代		51－3（県）987
1015	平伊倉Ａ遺跡	大字新田字平伊倉	散布地	先土器～弥生時代		51－4（県）988
1016	丸尾Ａ遺跡	大字新田字丸尾	散布地	縄文時代		集石あり
1017	丸尾Ｂ遺跡	大字新田字丸尾	散布地	先土器～弥生時代		
1018	丸尾Ｃ遺跡	大字新田字丸尾	散布地	縄文時代		
1019	音明寺遺跡	大字新田字音明寺	散布地	縄文～弥生時代		断面採集
1020	鵜戸川遺跡	大字新田字鵜戸川	散布地	先土器～弥生時代		
1021	北畦原遺跡	大字新田字北畦原	散布地	古墳時代		
1022	大谷川遺跡	大字新田字大谷川	散布地	縄文時代		集石あり
1023	新田原口遺跡	大字新田字原口	散布地	縄文時代	17	消滅

下新田地区　2001～2016

2001	竹淵経塚	大字新田字八幡上	経塚	中世	15	消滅
2002	八幡上Ａ遺跡	大字新田字八幡上	散布地	弥生時代		
2003	八幡上Ｂ遺跡	大字新田字八幡上	散布地	弥生～古墳時代		
2004	本蓮寺跡	大字新田字八幡上	寺跡	中世～近世	6．10	
2005	竹淵Ａ遺跡	大字新田字竹淵弓場迫	散布地・古墳	縄文～古墳時代		
2006	竹淵Ｂ遺跡	大字新田字竹淵	散布地	古墳時代		

遺跡番号	名　称	所　在　地	種　別	時　代	文　献	備　考
2007	竹淵C遺跡	大字新田字竹淵	散布地	古墳時代～古代		
2008	榕神遺跡	大字新田字榕神	散布地	古墳時代～中世	22	
2009	西中村遺跡	大字新田字西中村	散布地	古墳時代		
2010	開元遺跡	大字新田字開元、中村	城跡	古墳時代		
2011	山之坊上遺跡	大字新田字山之坊上	散布地	先土器～弥生時代		
2012	坂之上遺跡	大字新田字坂之上	散布地	弥生時代		
2013	溜水遺跡	大字新田字溜水	散布地	弥生時代		51－12（県）996
2014	竹ヶ山遺跡	大字新田字竹ヶ山	散布地	縄文～弥生時代		集石
2015	竹ヶ山城跡	大字新田字竹ヶ山	散布地	中世		
2016	塚原経塚	大字新田字塚原	経塚（一字一石）	近世	22	

富田地区　3001～3012

遺跡番号	名　称	所　在　地	種　別	時　代	文　献	備　考
3001	富田古墳群	大字上富田字八幡他	古墳	古墳時代	24	昭和19.12.25県指定

（号数）			
1	大字上富田字越馬場	円	
2～6	大字日置字蔵園	円	2，3，5消滅
7	大字三納代字南原	円	周囲が削られている
8	大字三納代字弁指	円	
9～14，17～19	大字三納代鐙	円	所在不明
未指定1～5	大字三納代鐙	円	S55.12調査
20～37	大字日置今別府	円	20～26，35～37 不明
38～42	大字日置隅ヶ迫	横穴	
未指定6～12	大字日置隅ヶ迫	〃	
43～51	大字上富田天神平	円	45～51所在不明
52～64	大字日置太郎兵衛迫	円	56～59所在不明

3002	鬼付女遺跡	大字上富田字鬼付女	散布地	弥生～古墳時代		
3003	江梅瀬遺跡	大字下富田字江梅瀬	散布地	中世		
3004	下城趾	大字上富田字中栗野田 下屋敷、屋敷	城跡	中世	6，10	
3005	下城元上台地遺跡	大字上富田字上野地	散布地	弥生時代	22	16～60を含む
3006	円明寺上遺跡	大字上富田字円明寺	散布地	古墳時代		

遺跡番号	名　称	所　在　地	種　別	時　代	文　献	備　考
3007	北廻遺跡	大字上富田字北廻	散布地	弥生～古墳時代		
3008	牛原遺跡	大字上富田字牛原	散布地	弥生～古墳時代		
3009	西北田遺跡	大字上富田字西北田	散布地	古墳時代～中世		
3010	上城趾	大字上富田字後迫、権見廻	城跡	中世	6．10	
3011	下野地A遺跡	大字上富田字下野地	散布地	弥生時代	22	16－61
3012	下野地B遺跡	大字上富田字下野地	古墳	古墳時代		

日置・三納代地区　4001～4039

4001	弁指遺跡	大字三納代字弁指	散布地	弥生時代	22	16－61
4002	南原A遺跡	大字三納代字南原	散布地	弥生時代		
4003	南原B遺跡	三納代字南原	散布地	弥生時代		
4004	山瀬遺跡	三納代字山瀬	散布地	古墳時代		
4005	地神A遺跡	三納代字地神	散布地	弥生時代		51－7（県）991
4006	地神B遺跡	三納代字地神	散布地	古墳時代		
4007	篠目遺跡	三納代字篠目	散布地	弥生時代		51－6（県）990
4008	南原C遺跡	三納代字南原	散布地	古墳時代		51－5（県）989
4009	平伊倉B遺跡	三納代平伊倉	散布地	古墳時代		
4010	中永牟田A遺跡	大字日置字中永牟田 大字新田赤穴	散布地	古墳時代		
4011	中永牟田B遺跡	大字日置字中永牟田	散布地	古墳時代		
4012	中永牟田C遺跡	大字日置字中永牟田	散布地	縄文時代		集石あり
4013	毛作遺跡	大字日置字毛作 松ヶ橋、西永迫	散布地	弥生時代		
4014	新山遺跡	大字日置字新山	散布地	縄文時代		
4015	小漆遺跡	大字日置字小漆	散布地	縄文時代		
4016	西永迫遺跡	大字日置字西永迫	散布地	弥生時代		
4017	西牧遺跡	大字日置字西牧	散布地	縄文時代		集石あり
4018	一ッ塚遺跡	大字日置字一ッ塚	散布地	古墳時代		
4019	北原牧遺跡	大字日置字北原牧	散布地	弥生～古墳時代		51－8（県）992
4020	上園遺跡	大字日置上園、古園	散布地	古墳時代		
4021	蔵園A遺跡	三納代字蔵園	散布地	弥生時代		51－9（県）993
4022	蔵園B遺跡	三納代字蔵園	散布地	弥生時代		51－10（県）994
4023	木戸遺跡	大字日置字木戸	散布地	先土器・弥生・古墳時代		
4024	通山遺跡	三納代字通山	散布地	弥生～古墳時代		
4025	太郎兵衛迫遺跡	日置字太郎兵衛迫	散布地	古墳時代		古墳消滅

遺跡番号	名　称	所　在　地	種　別	時　代	文　献	備　考
4026	藤掛A遺跡	大字日置字藤掛	集落跡	弥生・古墳時代	未報告	S56.9調査
4027	藤掛B遺跡	大字日置字藤掛	散布地	縄文～弥生時代	〃	一部消滅
4028	赤松遺跡	大字日置字赤松	散布地	弥生時代		
4029	原口遺跡	大字日置字原口、西小牟田	散布地	縄文時代		
4030	東小牟田遺跡	大字日置字東小牟田	集落跡	弥生時代		遺構あり
4031	小牟田遺跡	大字日置字小牟田	散布地	古墳時代		
4032	常林寺跡	大字日置字常林寺	寺　跡	中世～近世	6	古石塔あり
4033	中伏遺跡	大字日置字中伏	散布地	弥生時代		
4034	今別府A遺跡	大字日置字今別府	散布地	古墳時代～中世		
4035	今別府B遺跡	大字日置字今別府 大字三納代字新町	散布地	弥生時代		
4036	園田遺跡	大字三納代字園田・新町	散布地	弥生時代	13	S39.7調査
4037	鐙遺跡	大字三納代字鐙	集落跡・古墳	弥生～古墳時代	21	S56.2調査
4038	奥遺跡	大字三納代字奥	散布地	弥生時代		
4039	奥埼遺跡	大字三納代字奥埼		弥生～古墳時代		

附○宮崎考古 Vol 3（1977）所収　茂山　護・大野寅夫 ―児湯郡下の旧石器―所載 新富町分

新富町遺跡分布地図　　赤①～⑩に対応

採　集　地	所　在　地	出　土　品
① 祇園原	大字新田字尾小原	尖頭器(1)
② 川　床	大字新田字上深田	細石核(3)　剥片
③ 黒　坂	大字新田字黒坂	ナイフ形石器(1)　細石核(1)
④ 西畦原	大字新田字中別府鵜戸川	尖頭器(2)　細石核(5)
⑤ 一丁田	大字新田字大溝	ナイフ形石器(2)　細石核(1)　剥片(5)
⑥ 湯之宮	大字新田字大溝・湯之宮	ナイフ形石器(5)　尖頭器(2)　細石核(1)
⑦ 東畦原	大字新田字音明寺	ナイフ形石器(2)　細石核(5)
⑧ 湯風呂	大字新田字浦田	尖頭器(3)　細石核(2)
⑨ 追　分	大字新田字鶴ヶ牟田	ナイフ形石器(1)　石核(1)
⑩ 新　山	高鍋町上江新山	尖頭器(1)　細石核(1)　剥片

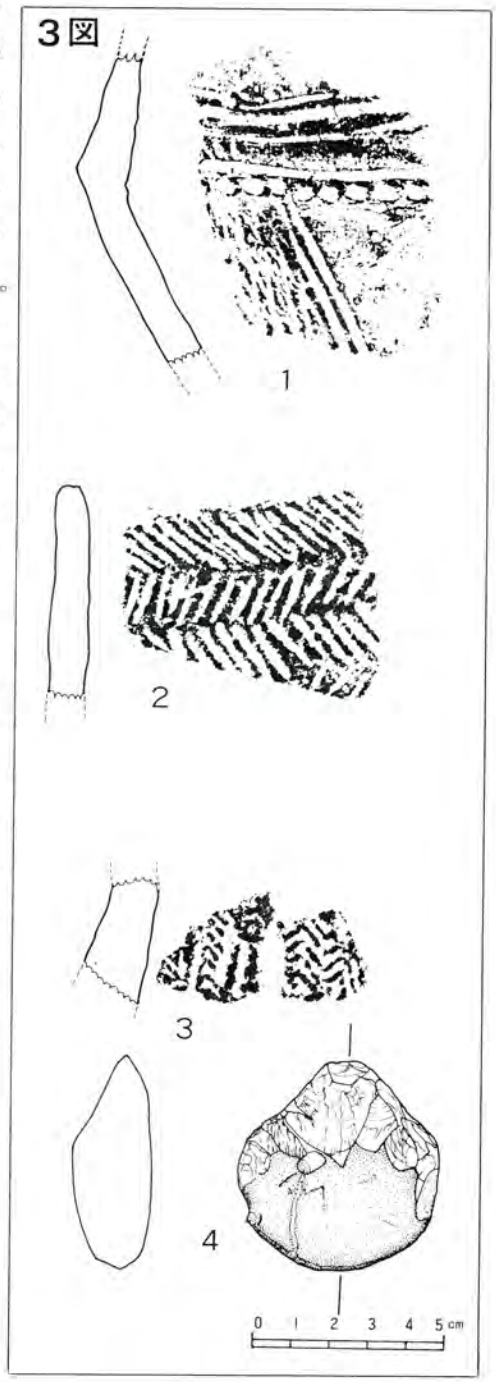
主要遺跡概説

1．原口遺跡　(4029)
2．一丁田遺跡　(1010)
3．藤山迫遺跡　(1006)
4．園田遺跡　(4036)
5．新田原古墳群　(1001)
6．今別府Ａ遺跡　(4034)
7．竹淵Ａ遺跡　(2005)
8．竹淵Ｃ遺跡　(2007)
9．竹ヶ山城跡　(2015)

1．原口遺跡（4029）　大字日置字原口・西小牟田

上日置の集落がのる台地にある。日置川の一支流が入り込む谷の最奥部に突き出した標高70ｍの舌状台地に位置し、東西はそれぞれ段差10ｍ位の小谷で囲まれている。台地は50～60ｍの巾で傾斜をもつが、ほぼ平坦地が形成されている。ここはもと、みかんが植栽されており、遺物はその引き抜き穴より採集されたものである。

３図１の土器は、“く”の字状にくびれをもつ塞之神系の土器で撚糸文に刺突文等の施文が加えられており、２は大型の爪形文をもつ、黒坂系の深鉢形の口縁であり焼成は良好であり、色調は赤褐色を呈す。３は山形を地文とし、その上に縦方向に沈線様に押圧されており底部からの立ち上がる部分が出土している。その他に石核・石皿・剝片があり、４のような石錐様の半円部が研磨されたものもある。以上のことから縄文前期における時代の遺跡であろう。（なお付近には、北西に古墳時代の集落跡である藤掛Ａ遺跡や集石を伴なった藤掛Ｂ遺跡、周隍をもった富田古墳65号の円墳があり、東には谷を隔てて弥生中期から後期にかけての集落跡と考えられる東小牟田遺跡がある。）

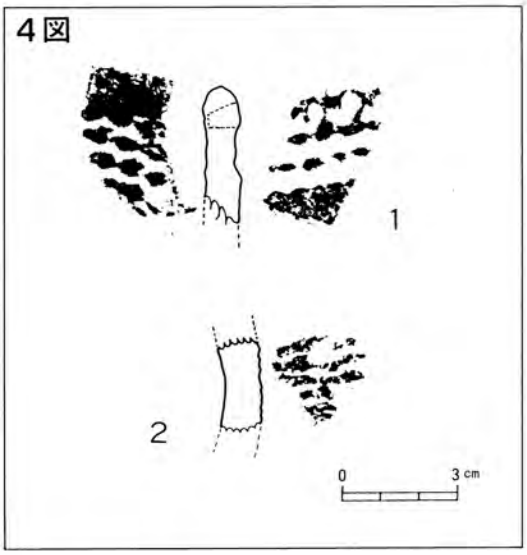


2．一丁田遺跡（1010）　大字新田字一丁田

新田原台地と三財原台地に狭まれた県道川床―三納代停車場線沿いの河岸段丘上に位置し、段丘面が北東にせり出し、周囲は 4.5m程の崖をなし、現在は畑地及び宅地として利用され、畑の一部には赤ホヤ層まで削平されていて焼石等が多数散布している。採集遺物は少ないが、撚糸文状のものと押型文に刺突文を加えた明瞭な口縁部がある。

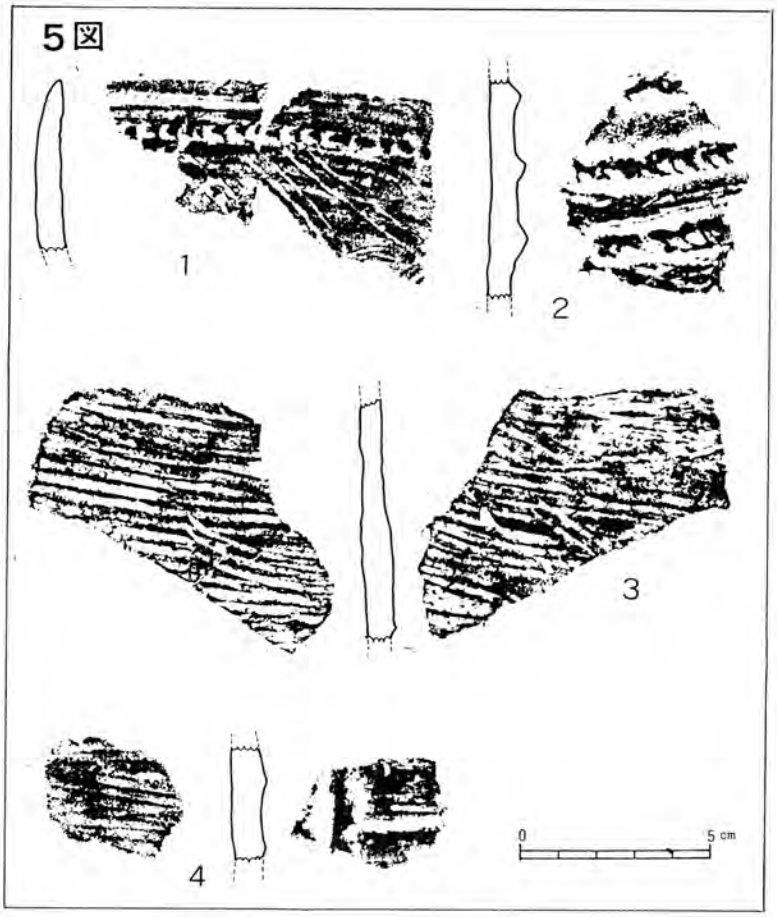
4図1（図版1－5）は表に巾2cmの中に2列の惰円文状押型で深く、明確に施こし、その上部に径4㎜位の棒状施文具で8㎜程刺突したまま右斜め上方に押し上げ、捏ねて引きぬいている。施文帯下は無文であり、内面は外面同様の施文具で浅く施文されている。胎土に長石を含み、色調は黒褐色であるが表面は暗褐色を呈す極めて硬い焼成である。

2は撚糸状の施文で赤黄色を呈し、2㎜大の石粒を含み焼成は普通である。以上の2点であるが押型文に集石遺構の一部と思われる焼石が多数散布することから、縄文時代早期から前期にかけての遺跡であり、未だ削平されていない北方の台地周縁等に遺構が遺存するものと考えられる。なお西方 200mからは、大野寅夫氏により旧石器（細石核3点）が採集された川床（大字新田字上深田）の土取り場がある。（参照）地名表附



3．藤山迫遺跡（1006） 大字新田字藤山迫

新田原台地の西縁から東北東と深く切れ込んだ谷の北面する棚状緩斜面に位置する標高40m位の遺跡である。付近には北西の台地上に向原遺跡があり、北西には新田原B遺跡などがある。ここは土取りにより生じていた断面から遺物が採集されており、赤ホヤ（第1オレンジ）直上の赤ホヤ風化層に焼石とともに6点の土器及び軽石が採集されている。5図1は薄手で口縁部が外反し、口縁下に一条の沈線状のものをもち、右方向に半截竹管による押し引きで施文されている。そこより右斜め下方に同施文が行なわれ、引き下ろしたりしている。全面にこげ状の煤が付着している。2は貝殻文を地文とし、張り付け状の突帯の先端に刺突を加えている。4は横方向の突帯の間に、縦方向の突帯があるものであり、3のように内外面とも全面に貝殻条痕文が施されている薄手のものもある。色調は1黒色、2，3は明褐色を呈し、焼成も良好である。1，4は轟式の範疇にはいるものと思われ、縄文前期における住居跡等が考えられ、1の土器の吹き出しによると考えられる煤は、その成分等が注目されるところである。



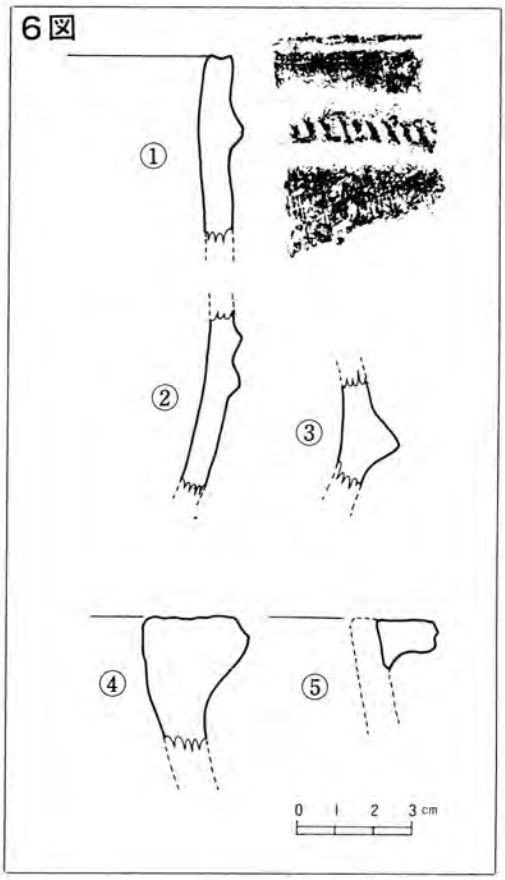
4．園田遺跡（4036）　大字三納代字園田・新町

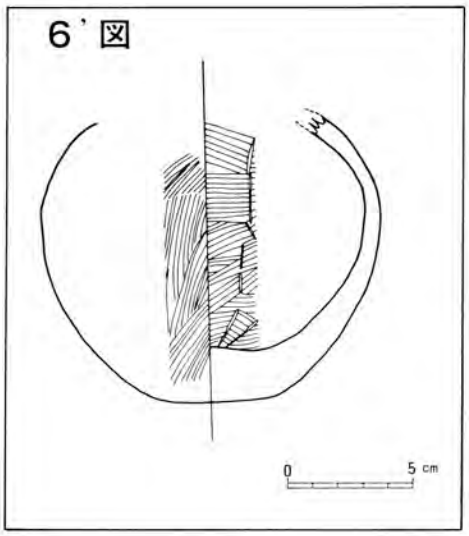
旧国道10号線沿い、日置川と鬼付女川に挟まれた標高10m内外の砂丘（第4列）の鬼付女川よりの部分を主散布地とする遺跡である。昭和39年7月に薗田橋橋脚工事の際、発見された薗田遺跡は石川氏が調査されており[注1]、遺物は地表下4mの地点（標高2m位か）という極めて低位から採集された壺形土器（6'図参照）及び硬質頁岩製（通称油石）の磨製及び半磨製の扁平片刃石斧等であり、現在、扁平片刃石斧を除く石器類と壺形土器は新富町中央公民館に展示されている。

今回の調査では園田遺跡に続く北50mの標高7mの砂丘上平坦地に数多くの土器等が表採され、宮崎市石神等の遺跡と同様現在の砂丘を入れて第4列目に位置するものとして注目されるところである。現在、宅地及び畑となっている。遺物についてみてみると、①（6図）は復元口径27.6cmを計り、体部には縦方向に刷毛目で調整され、上方より右斜下方に刻みを入れたはりつけ突帯をもち、それより僅かに外反し、口唇に沈線状窪みをもつ甕形土器の口縁であり、②・③は肩部付近、④・⑤厚手と薄手の逆L字口縁である。

これら下城系の土器や厚手の甕口縁の存在から弥生中期から後期にかけての遺跡であろう。

注1　「宮崎県の考古学」1968年　石川恒太郎





5．国指定史跡、新田原古墳群（昭和19年11月13日指定）

大字新田字塚原ほか

新田原古墳群は、宮崎県中部の洪積台地に広がる全国有数の密集地であることで知られ、その中でも、西都原古墳群に次ぐ、分布を誇る。昭和33年調査において 210余基（西都市分および消滅分を含む）が数えられている。

その中、42・43・44号、45号（石船塚）については、昭和14年３月に、京都大学教授であった梅原末治氏を中心に調査が行なわれており、報告がなされている。[注1] それによると、45号は、主軸の長さが約68.2ｍ、後円部の径45.5ｍ、高さ５ｍ位とされ、主軸線は南北よりやや東に傾いていて、後円部を北にした円墳で遺物は、雲珠等を出土している。42号は、後円部を北にし、主軸の長さ30ｍ、後円部径16ｍ、後円部の高さ約 212㎝、前方部高さ1.21ｍの前方後円墳で、金銅装圭頭太刀・管玉、小玉等を出土している。43号は後円部を北にしており、主軸の長さ約62.3ｍ、高さ約5.15ｍで前方部はやや低く約４ｍで、金環１対その他を出土している。

44号は各辺ほぼ23ｍの方墳で、各辺は方位線と15度位傾いており、横穴石室をもち、鉄製長方形金具、鉄地銀張鞘（こはぜ）形金具等を出土している。その他に山之坊出土の鏡についての記載があり、画文帯神獣鏡１面、獣文縁獣帯鏡２面及び刀剣３、勾玉２、管玉大小24等を出土しているとのことである。この中、最近新田神社にその時の出土とされる刀が奉納されていることが判明した。

これらの古墳群は、地勢的に大きく３つの地域に分けられる。その一つは、祇園原・春日を中心とした地域であり、一つは、竹淵・山之坊・開元の地域で、これには現在、滑走路となっている石船塚等を含む、また一つは塚原・竹ヶ山を中心とする地域である。尚、これらの古墳群の中、151基については、現在、町有に帰し、保護の手が加わりつつある。

注１「宮崎県史蹟名勝天然記念物調査報告第11輯―新田原古墳調査報告―」1940年 梅原末治

6．今別府Ａ遺跡（4034）　大字日置字今別府

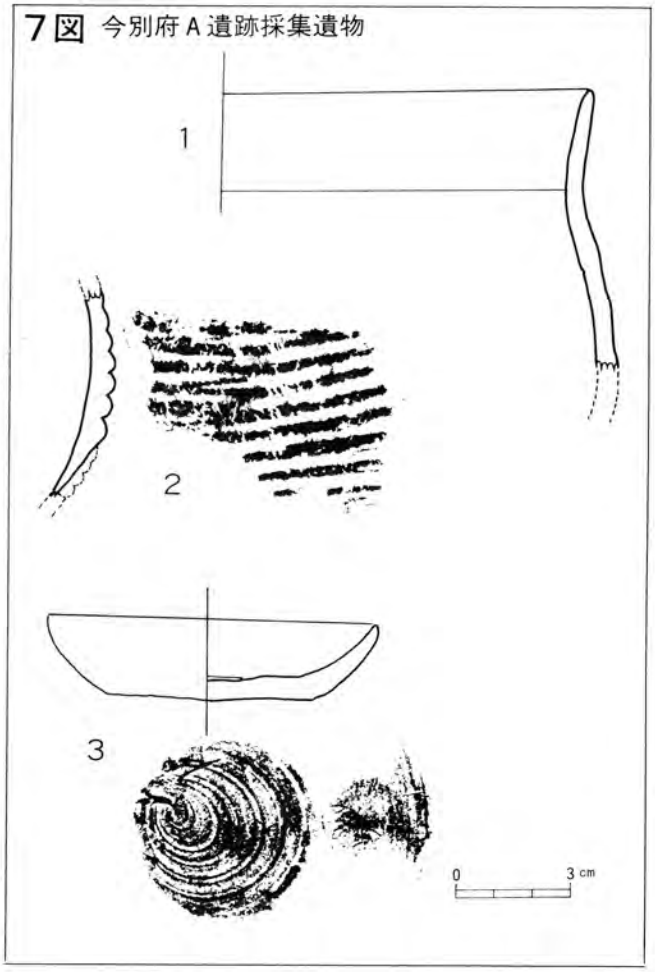
富田古墳群の主要分布地である鐙、今別府の丘稜の山麓にあたる日置川左岸の沖積台地（砂丘）上に立地し、西に昭和56年２～３月調査で、弥生時代中期の住居跡や茸石をもつ円墳が発掘された鐙遺跡があり、東西には国道10号線を挟み、園田、今別府Ｂの両遺跡がある。

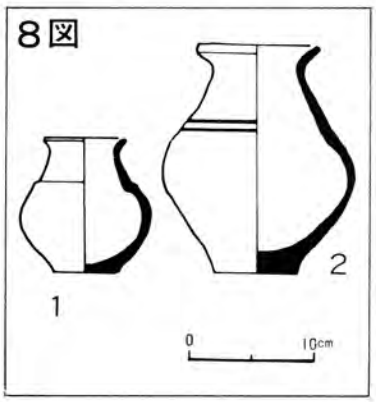
北及び西側は 1.5m位下がった面に水田が取り巻いており北東面には湾津状地形を介し、富田古墳群の一部である太郎兵衛迫の古墳群や、隅ヶ迫の横穴墓がある。

表採遺物は復元口径 9.7cmの石粒を胎土に含む甕形土器の胴部と思われる外面に叩きをもつ（７図２）や、粗製土器細片、須恵器細片が採集されている。以上の土器については、未報告であるが、昭和56年９月調査の藤掛Ａ遺跡に於いても出土しており、高鍋町、上別府遺跡からも同様の土器が出土している。（注１）

尚「弥生式土器集成」本編１（小林行雄、杉原荘介1964年）所収の今別府出土土器（８図１，２図版１－１）については、その出土地を確認できなかったが、本遺跡及び今別府Ｂ遺跡周辺であろう。

注１．お染ヶ岡地区特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告「上別府遺跡」
1979　宮崎県教育委員会





7．竹淵Ａ遺跡（2005）大字新田字竹淵・弓場迫

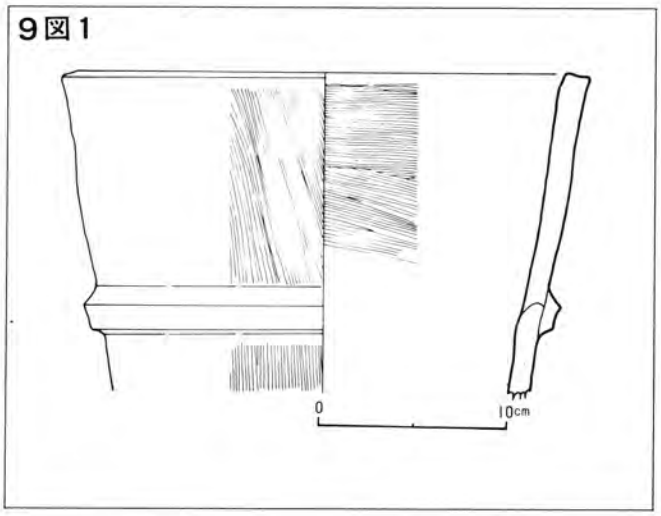
新田原台地より西方に突き出た一台地から南の冲積平野に派生する山麓に位置し、西側に弓場迫と呼ばれる谷をもつ標高15～25ｍにある。（周辺には北方 400ｍに竹淵の経筒出土地があり、本蓮寺趾がある。東には新田神社を中心とした楢神（たぶがみ）遺跡があり、ヘラ切り痕の土師片及び須恵甕片を出土している。）

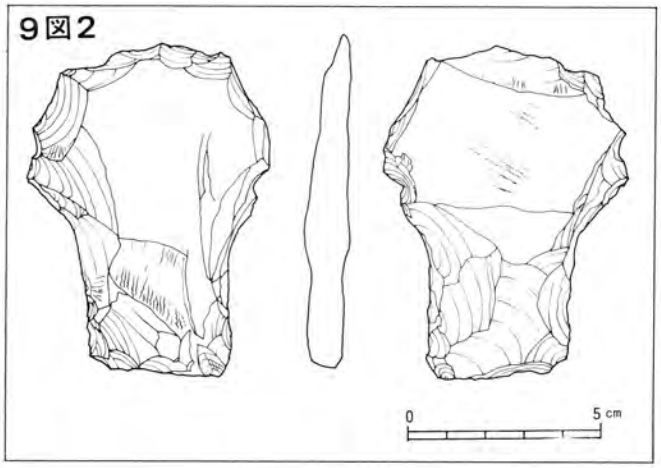
本遺跡は宅地開発による造成工事において、新田原10号墳下より発見されたもので、円筒埴輪の破片及び無文の縄文土器や黒耀石剝片が表採され、加えてその南の一段下だった墓地跡より、有柄打製石斧が採集されている。本遺跡の中心は10号墳の周隍であるが、縄文から古墳時代に至る複合遺跡と考えられる。

９図１は、断面が台形で窪みのある張り付け突帯をもつ円筒埴輪であり、上部内口径25.8cmを計る。

外面に縦方向の刷毛目をもち、内面は横方向に刷毛目調整されている。胎土に小石粒を含み、淡い黄白色を呈す。焼成は比較的良好な遺物である。

９図２は、粘板岩製の有柄打製石斧で、赤褐色である。

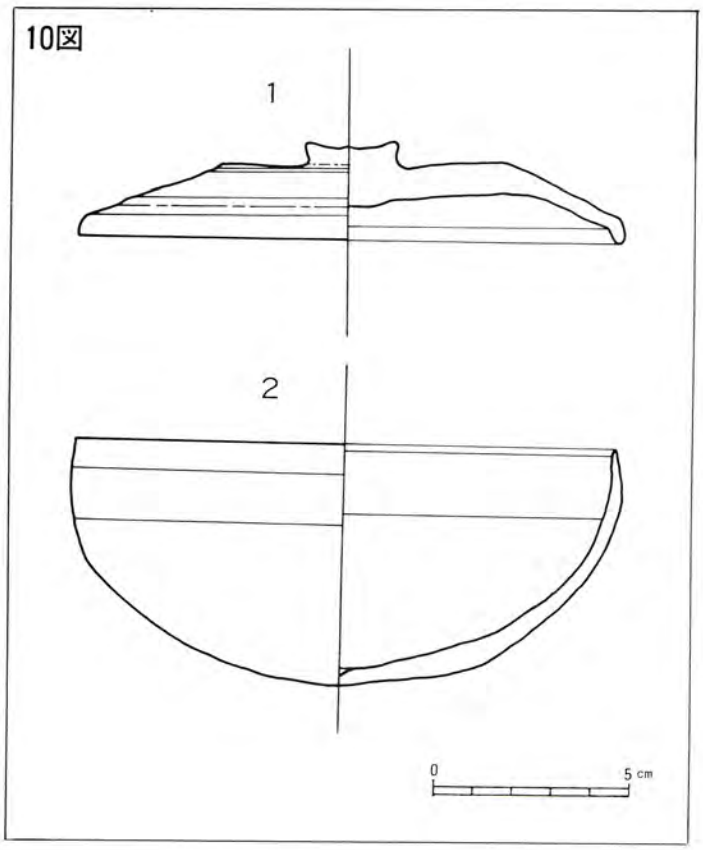




8．竹淵（たけぶち）C遺跡（2007）大字新田字竹淵

一ッ瀬川が新田原台地にぶつかり、南に流れを変え、また東に変える県道下富田～西都線瀬口橋の1㎞下流左岸の第2段丘上にある。北側には竹淵の集落がのる平坦面があり、西は一ッ瀬川に直接に面しており、東は5ｍ位下がって巾60ｍの水田に開かれた谷を挟み、西中村遺跡がのる段丘に対峙する。遺物は表土である砂質土に相当数散布しており、東西40ｍ、南北60ｍの五輪塔及びその残抉がある周辺に特に濃厚の散布をみる。10図とあるものは、三好宅裏にて農作業中に採集されたもので地表下60㎝位より出土している。1は焼成時に変形した須恵器杯蓋で2は丸底の盌で、何づれも完全形であったとのことであるが、畑脇からは採集出来なかった。

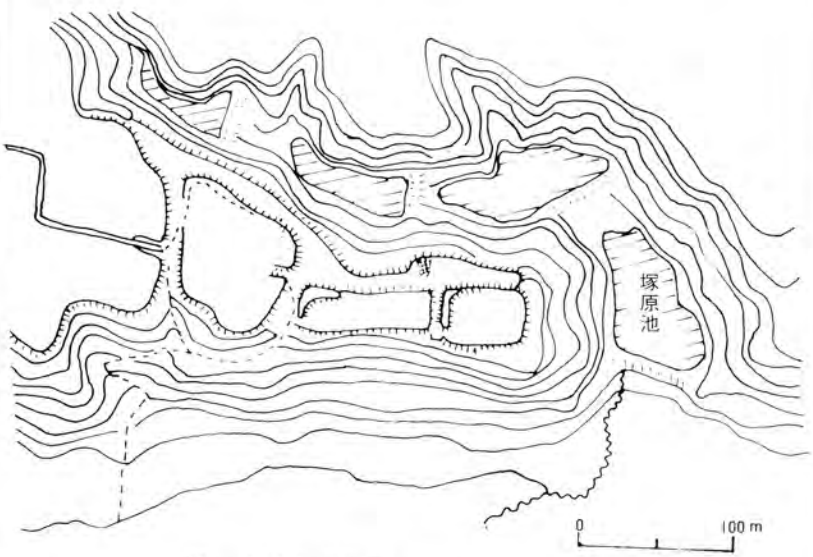
1については、「天観寺山古窯趾」の編年によるとⅦ～Ⅷ期に相当する。



9．竹ヶ山遺跡　城跡（2015）大字新田字竹ヶ山

新田原台地より南東にＬ字状に突き出した台地の一つであり、県道下富田―西都線沿いの塚原の集落より北方の標高50ｍの台地上にあり、現在、山林及び畑地となっている。付近には、東に 500ｍに上城趾、さらに1200ｍに下城趾がある。11図のように北側には東側より入いる谷をもち、南側は断崖をもって山麓に続く。台地を南北に約10ｍ、深さ５～７ｍに掘られた箱薬研堀三本で区画された最東側の郭を中核とし、外郭として二の郭、西側の三の郭により構成され、北側には空堀のほぼ同じ高さに腰曲輪をもつ連郭式丘城である。この郭及び東の一の郭には土塁が残こり、この郭に付属する腰曲輪には30㎝大の河原石が積み上げられた城郭中において第三期とされる室町～戦国時代の築城が考えられるが、文献等には本城の記載はない。しかし一の郭には備前様の大甕片等が多数出土していること、昭和16年発行の「宮崎県史蹟名勝天然記念物調査報告書第11輯」の地形図には城元となっていること、現地においてはその付近を新田城元と呼称していること、三の郭に残る五輪塔の残欠の銘文に天正14年とあることなどから室町～戦国時代の城跡であることが考えられる。なお、この城跡の築城法に類似するものとしては、規模は大きいが木城町高城跡がある。

11図



竹ヶ山城跡見取図

Ⅳ まとめ

1．調査を終って

最後に、当調査の目的である埋蔵文化財包蔵地の把握について不備を反省すると、県内初でもあり、調査法の実際について惑わされたことが２・３点あったのでそれについて記すと、

○当町は農業基盤整備等が台地を中心に相当進んでおり、原地形からすると相当変化しており、遺物の採集にあたって、何づれの文化層からの出土なのか、不明の点が残る部分もあった。

○７、８月の現地調査時にて、例年にない無降雨という状態が続き、畑地については乾燥が激しく、表面が乾燥のため表採作業に支障をきたした。

○水田、山林については、10月・11月をあてて、６～９月は畑地を中心に調査をした理由だが、畑地における土地利用の回転が速いこと、つまり、作付の間隔が短かいことから不効率であったこと、山林等については、一部を除いてほとんど調査することが出来なかった。

以上の問題点をふまえ、表採作業は、畑地、水田、山林等について条件が整う、秋から冬の時期に行なわれるべきであり、これから引き続き実施されるであろう他市町村の分布調査が、より密度のある調査が行なわれることを願い、反省とさせて頂くこととする。

2．新富町関連文献録

1．「建久(日向)図田帳」1197年 日向国留守所進撰
日向郷土史料集 第5巻（1973年）所収　日向郷土史料集刊行会

2．「宇佐宮御領大鏡」著者不明
日向郷土史料集 第7巻(1975年)所収　日向郷土史料集刊行会

3．「日向記」落合兼朝他
日向郷土史料集 第1巻(1971年)所収　日向郷土史料集刊行会

4．「本藩実録」（続及拾遺を含む）大塚観瀾他著
宮崎県史料 第1～4巻(1978年)所収　宮崎県立図書館

5．「佐土原藩分限帳」
野田敏夫校訂 1964年　日向文化談話会

6．「日向地誌」平部嶠南著(1929年）日向地誌刊行会

7．「日向国史」
喜田貞吉、日高重孝共著(1930年）史誌出版社

8．「佐土原藩史」
日高徳次郎著(1960年）島津慶祝会

9．「日向郷土事典」
松尾宇一著（1980年）

10．「宮崎県史蹟名勝天然記念物調査報告書」第4輯（1924年）
宮崎県

11．「宮崎県史蹟名勝天然記念物調査報告書」第11輯
新田原古墳調査報告　梅原末治著(1940年）宮崎県

12．―縄文・弥生期考古遺物地名録―
宮崎県立博物館報5輯(1955年）所収　宮崎県立博物館

13．「宮崎県の考古学」
石川恒太郎著(1968年）吉川弘文館

14．「地下式古墳の研究」
石川恒太郎著(1973年）ぎょうせい

15．宮崎の経塚地名録 ―茂山　護
研究紀要№3所収　収宮崎県総合博物館（1975年）

16．児湯郡下の旧石器 ―茂山　護　大野寅夫
宮崎考古Vol 3（1977年）所収　宮崎考古学会

17. 宮崎県児湯郡新富町祇園原表採の遺物—沢皇臣他
宮崎考古 Vol 3（1977年）所収　宮崎考古学会
18. 「日向の伝説と史蹟」
（1978年）宮崎県
19. 「増補地下式古墳の研究」
石川恒太郎著（1979年）ぎょうせい
20. 畦原型細石核—大野寅夫採集石器集成（I）—茂山　護
宮崎考古 Vol 6（1980年）所収　宮崎考古学会
21. 鐙(あぶみ）遺跡発堀調査概報—面高哲郎
広報しんとみ 第147号（1981年7月号）新富町
22. 埋蔵文化財包蔵地分布地図、宮崎県編
1968年　文化庁
23. 新田原古墳台帳
1939年9月8日調査作成　1958年3月調査
新田村(現新富町)教育委員会
24. 富田村古墳群管理台帳
1980年12月作成　新富町教育委員会

付・向原遺跡表採石剣について

本石剣は祇園原在住、松尾敏雄氏より寄贈されたもので、昭和55年、畑地改良中に同氏が採集されたものである。全長23.8cm、中央部巾 4.0cmの頁岩製でよく磨研されており、柄部にあたる部分には、握りの機能のため、あるいは着帯のためかと思われる僅かな窪みがあり、用途としては、利器及び儀仗用が考えられるが、共伴土器等がないこと、単一だけの採集であることなどから時代等について明らかにできないため、紹介だけにとどめる。

尚、県内においては、高千穂陣内遺跡に石刀が出土しており、(注１）また、西都市においては、石剣が出土しており、(注２）それぞれ、縄文時代後期～晩期にかけての遺物とされ、儀仗用、実用の二通りの所見が示めされている。

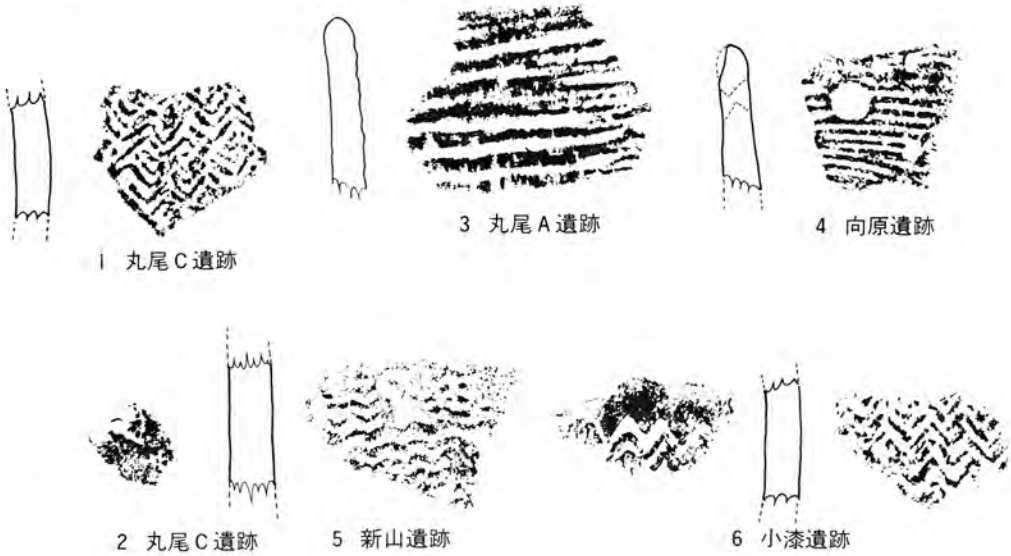
注１　日向遺跡総合調査報告第２輯　陣内遺跡
1962年　宮崎県教育委員会

注２　西都発見の石剣　茂山　護
宮崎考古 Vol 2　1976　宮崎考古学会

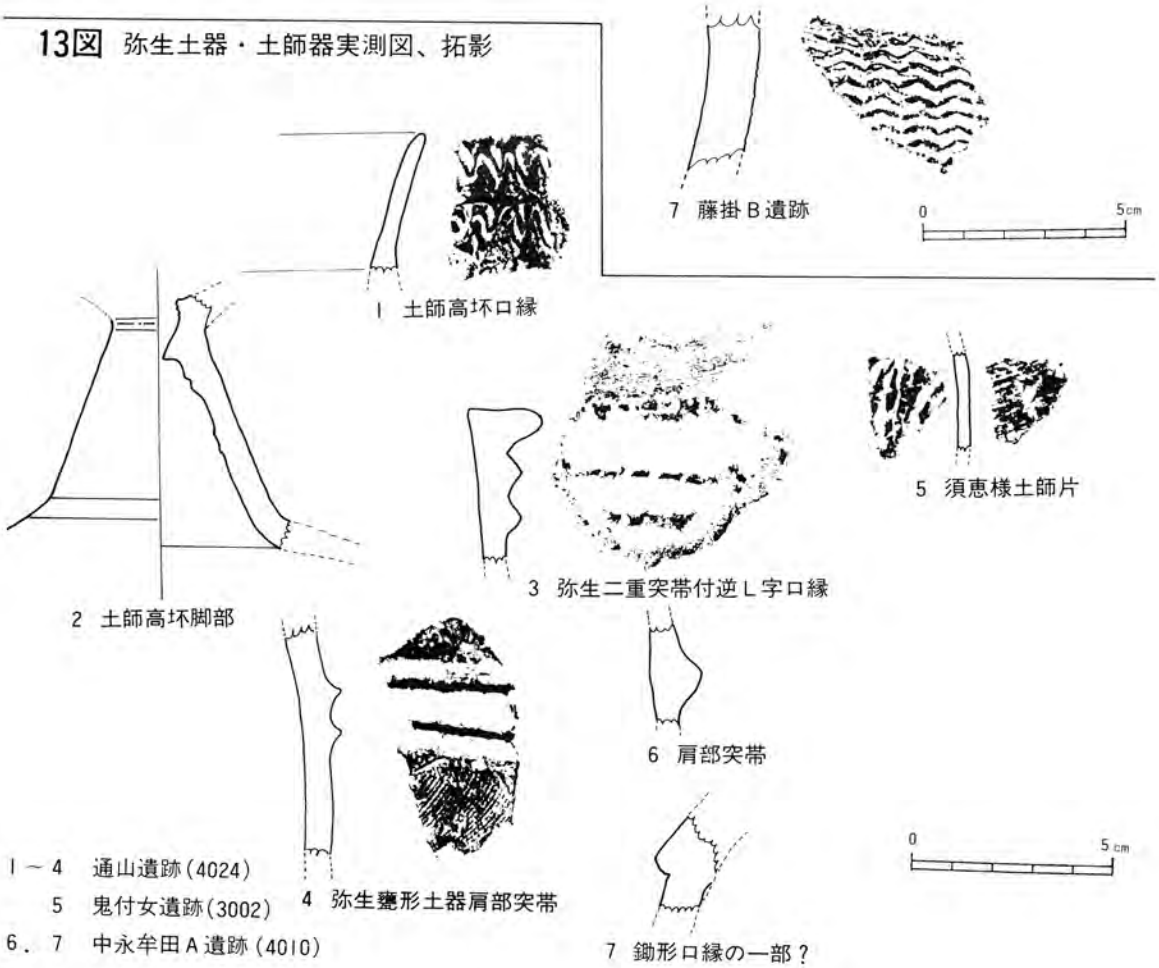
押　　図

図　　版

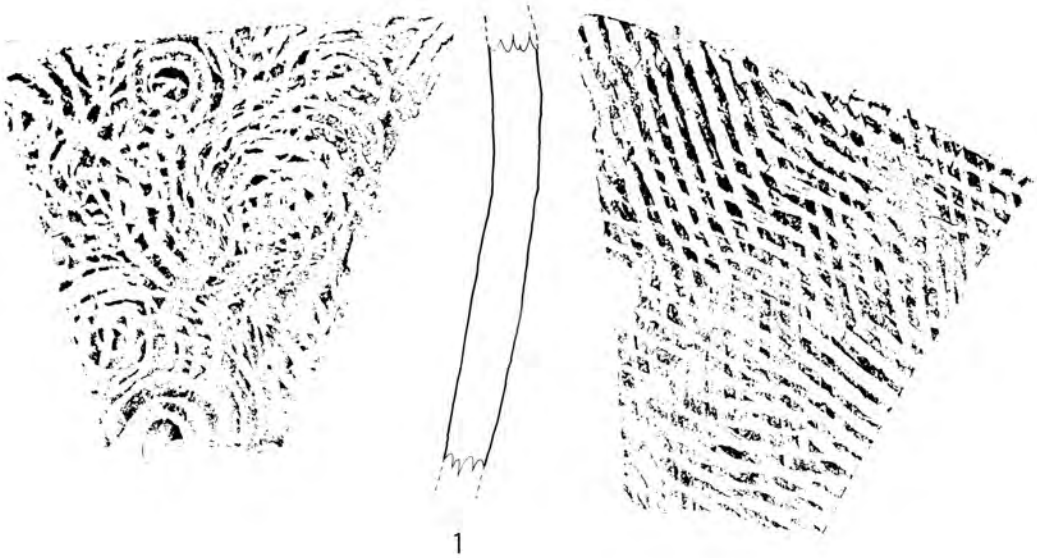
12図 縄文土器実測図、拓影（押型文土器）



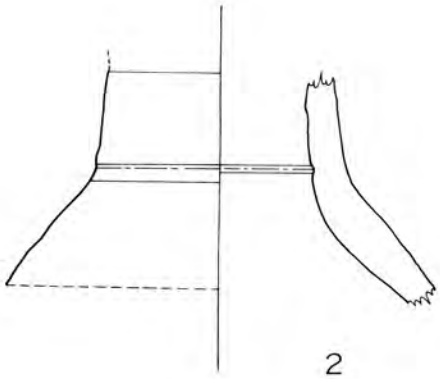
13図 弥生土器・土師器実測図、拓影



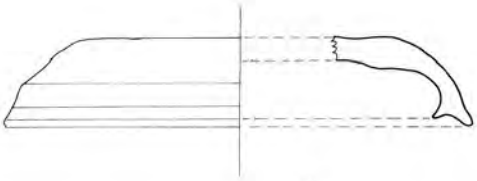
1～4 通山遺跡(4024)
5 鬼付女遺跡(3002)
6．7 中永牟田A遺跡(4010)



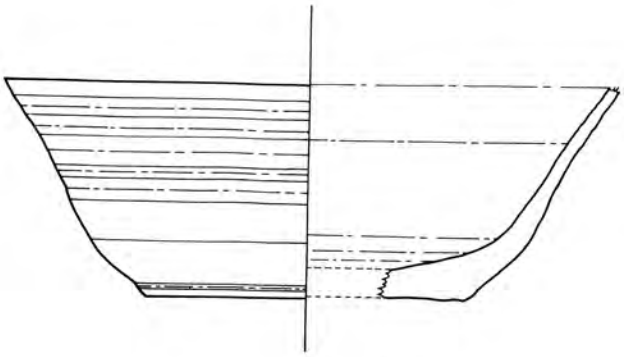
1



2



4



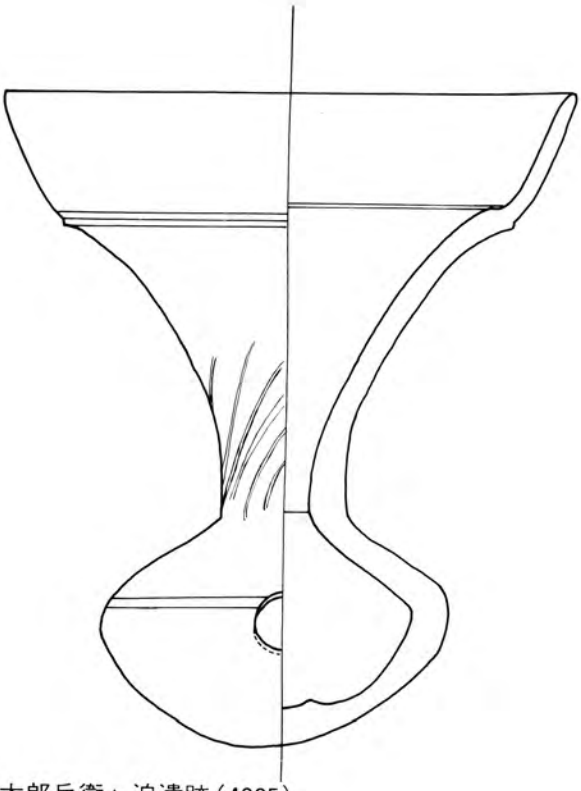
3

0 5cm

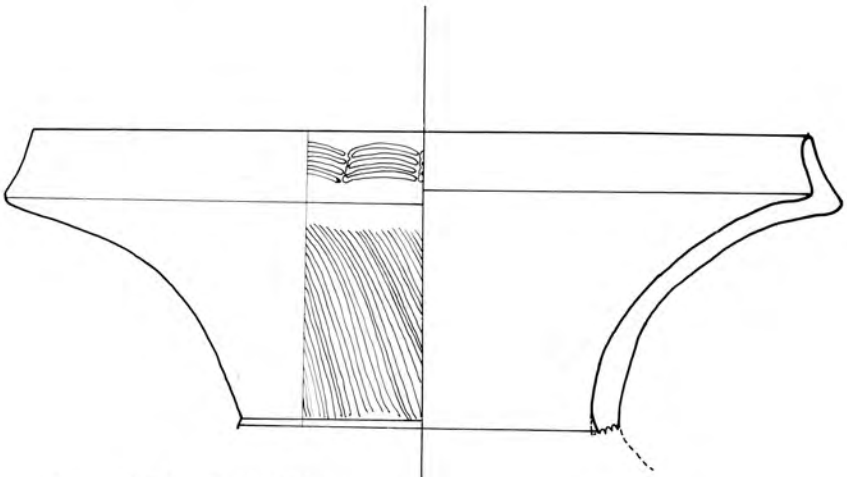
14図　須恵器

甕片(1)、壺片(2)
中世土器・碗(3)、坏蓋(4)
1．平伊倉Ｂ遺跡（4009）
2．上園遺跡　　（4020）
3．　〃　　（　〃　）
4．地神Ｂ遺跡　（4006）

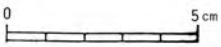
15図

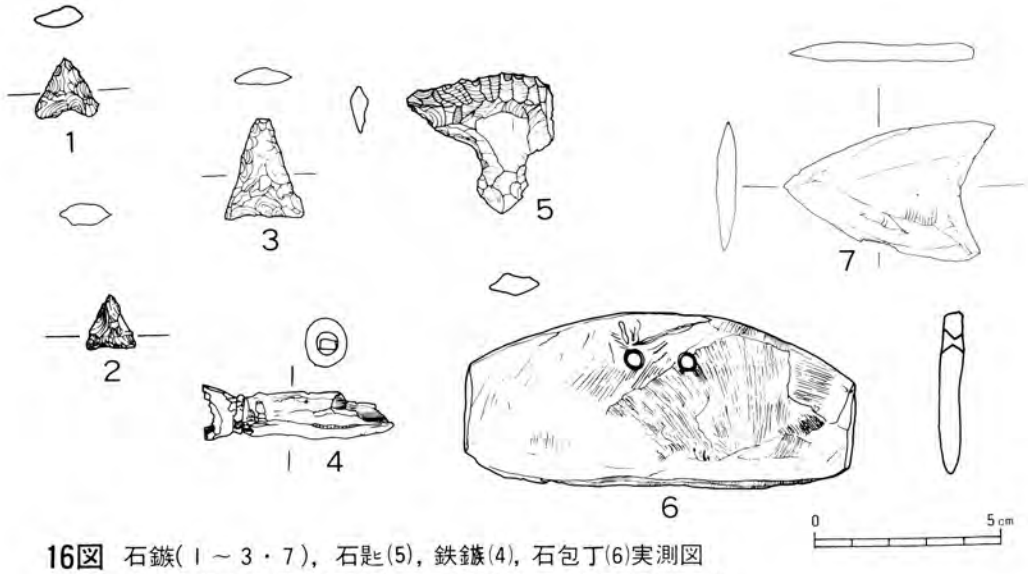


1．須恵器　太郎兵衛ヶ迫遺跡(4025)

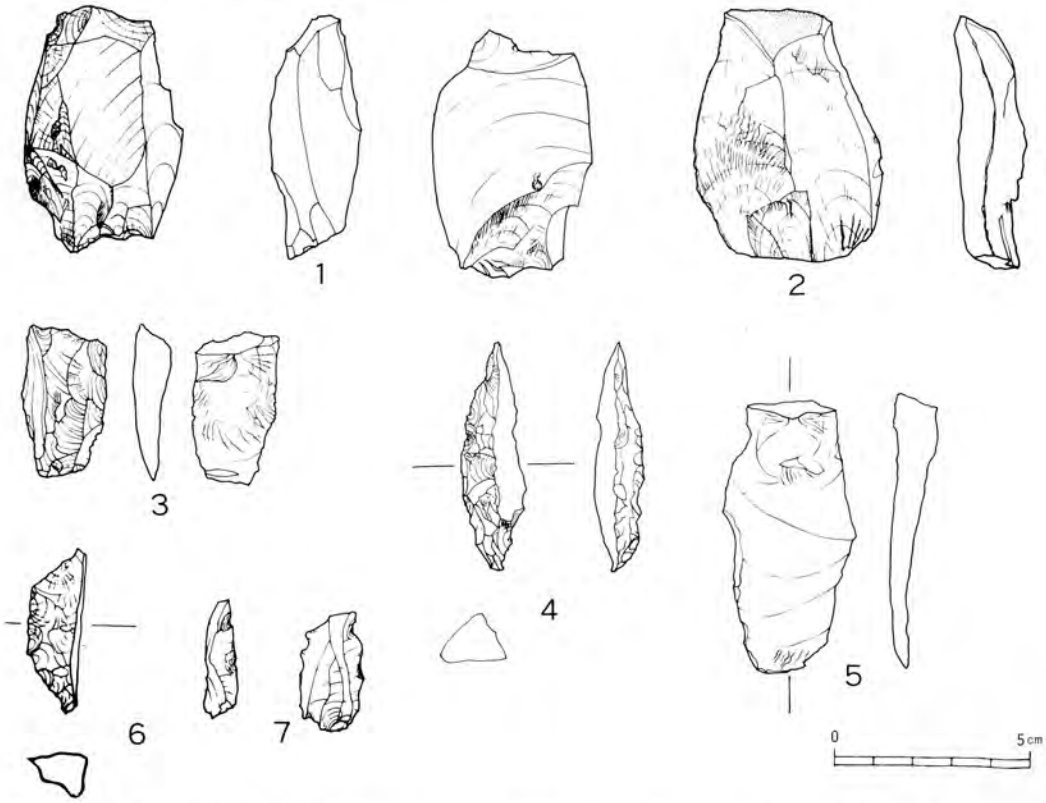


2．土師器　奥埼遺跡(4039)

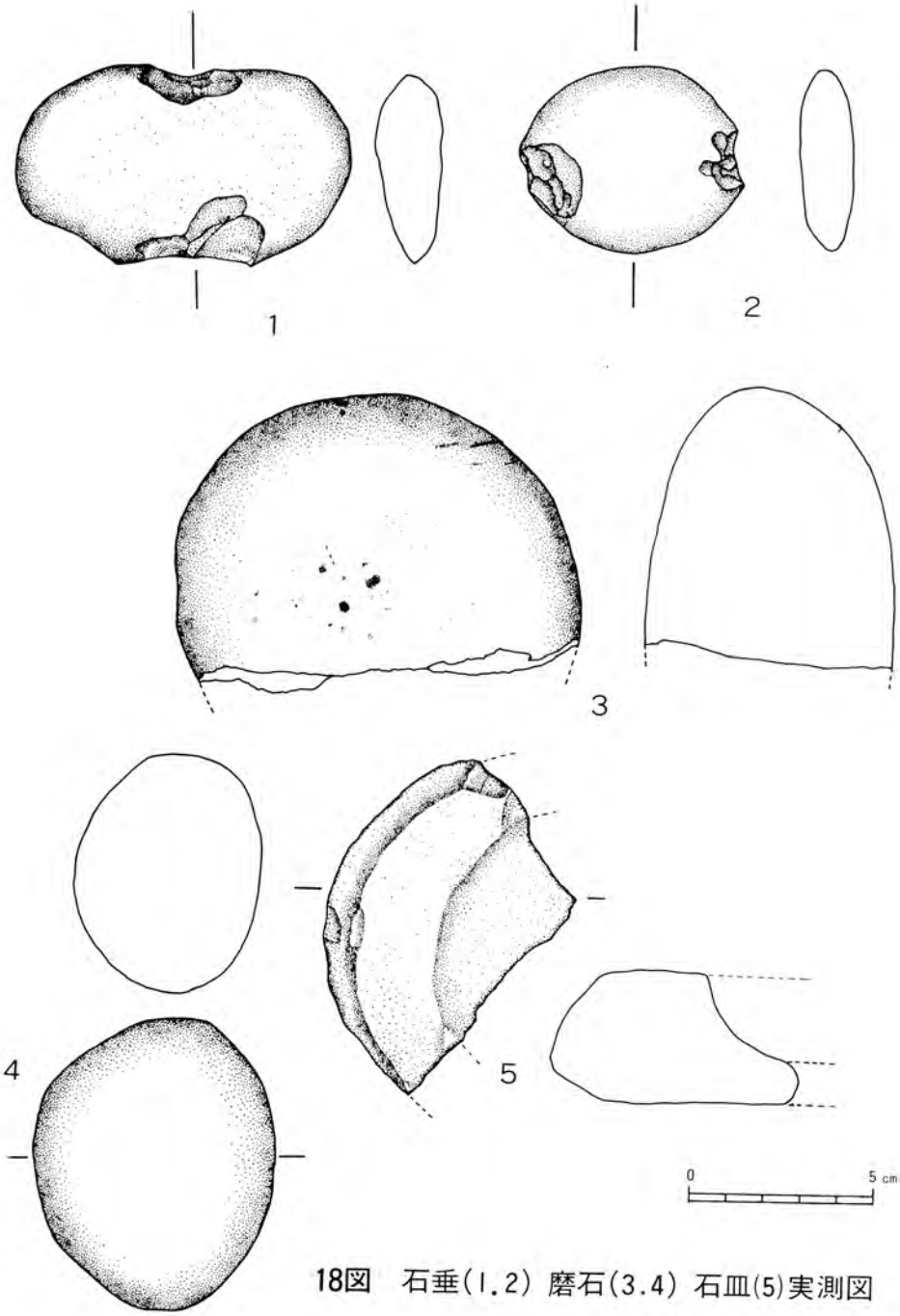




16図 石鏃(1～3・7)，石匙(5)，鉄鏃(4)，石包丁(6)実測図
4．八幡上B遺跡(2003) 5.6.祇園原表採(黒木政喜氏)
1 藤掛B遺跡(1027) 2 丸尾C遺跡(1018) 3 西牧遺跡(4017)
7 赤松遺跡(4028)

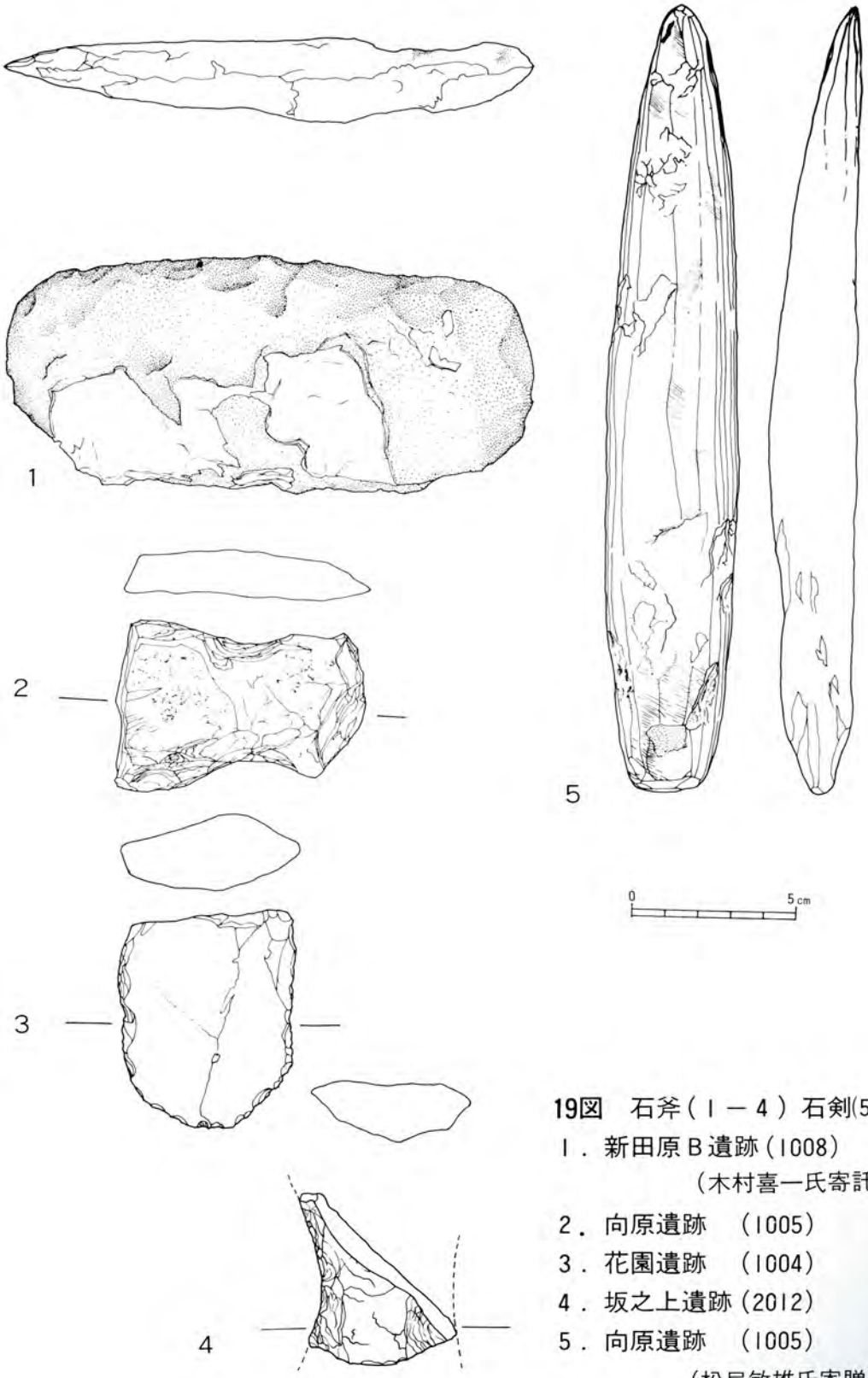


17図 旧石器類実測図 石核(1)，翼状剥片 (2･5)，剥片(3)，尖頭器(4)，彫器(7)，不明(6)
1 丸尾B遺跡(1018) 2 通山遺跡(4024) 3.6 平伊倉A遺跡(1015)
4 新田原B遺跡(1008) 5 音明寺遺跡(1019) 7 山之坊上遺跡(2011)



18図　石垂(1.2) 磨石(3.4) 石皿(5)実測図

1 向原遺跡　(1005)
2 藤掛B遺跡 (4027)
3 通山遺跡　(4024)
4 原口遺跡　(4029)



19図　石斧（1－4）石剣(5)

1．新田原B遺跡（1008）
（木村喜一氏寄託）

2．向原遺跡　（1005）

3．花園遺跡　（1004）

4．坂之上遺跡（2012）

5．向原遺跡　（1005）
（松尾敏雄氏寄贈）

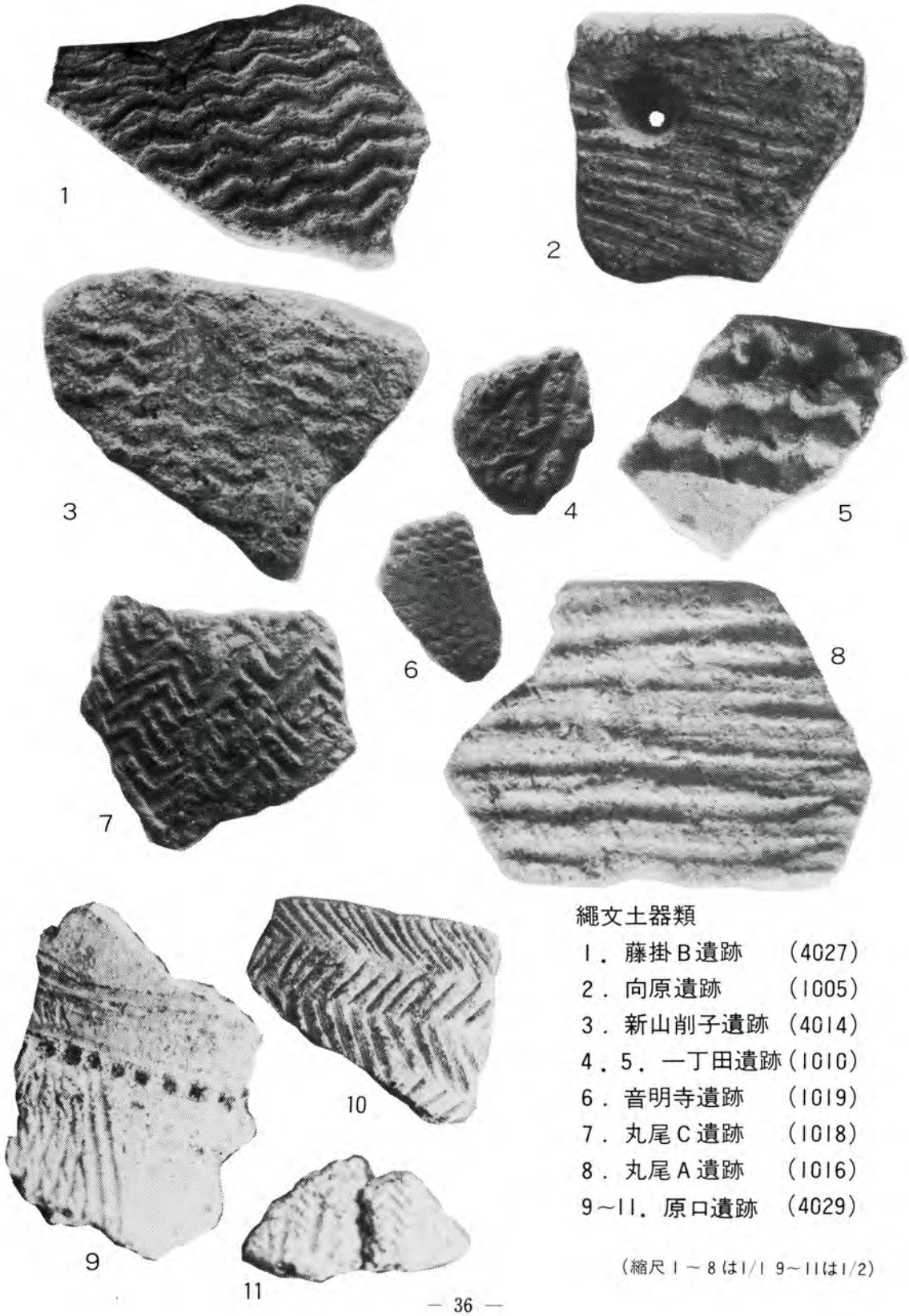
図版 1

今別府出土壺形土器（県立博物館蔵）

塚原経塚（一字一石）

竹ヶ山城跡（上空より）

図版２

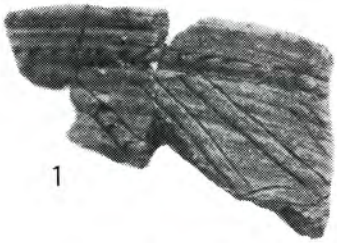


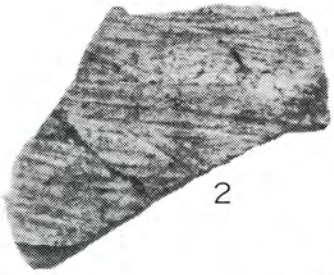
縄文土器類

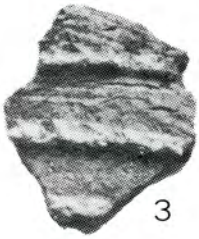
1．藤掛Ｂ遺跡　(4027)
2．向原遺跡　(1005)
3．新山削子遺跡　(4014)
4．5．一丁田遺跡 (1010)
6．音明寺遺跡　(1019)
7．丸尾Ｃ遺跡　(1018)
8．丸尾Ａ遺跡　(1016)
9～11．原口遺跡　(4029)

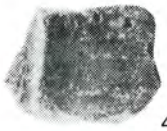
（縮尺１～８は1/1　９～11は1/2）

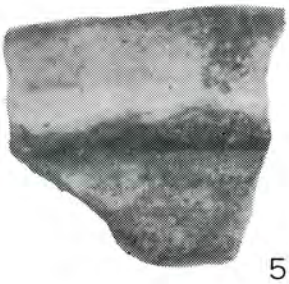
図版3


1

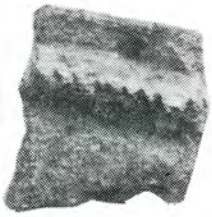

2


3

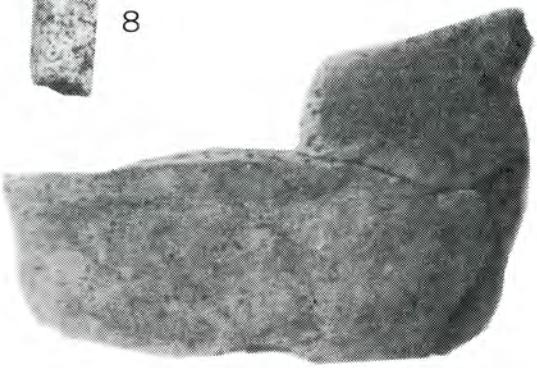

4

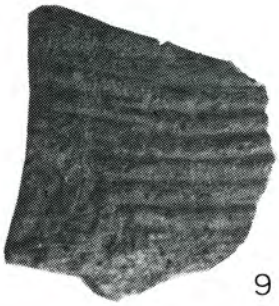

5

6


7

8


10


9

11

土器類 I

I ～ 4　藤山迫遺跡　(1006)
　　4　東小牟田遺跡(4030)
6 ～ 7　園田遺跡　(4036)
9 ～10　今別府 A 遺跡(4034)
　　11　奥埼遺跡　(4039)

(縮尺 1/2大)

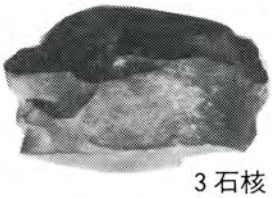
図版4

土器類(2)　埴輪片(1)，坏蓋(2)，埦(3)，瓿(4)，壺片(5)，中世土器(6)
1 竹淵A遺跡(2005) 2.3 竹淵C遺跡(2007) 4 太郎兵衛ヶ迫遺跡(4027)
5.6 上園遺跡(4020)

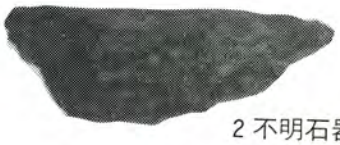
(縮尺　1～4，1/3大　5.6，1/3大)

図版５

１尖頭器



３石核



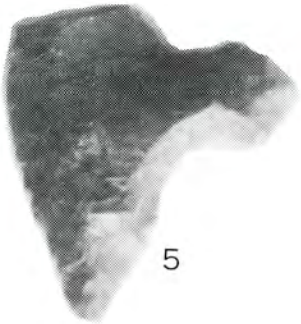
２不明石器

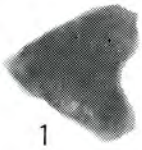
４彫器

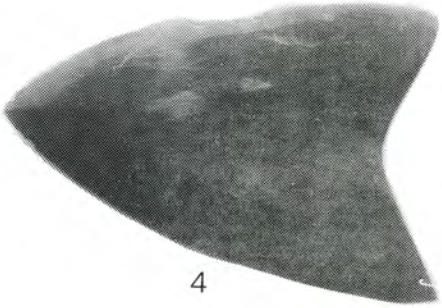
旧石器類

１新田原Ｂ遺跡　２平伊倉Ａ遺跡　３丸尾Ｂ遺跡　４山之坊上遺跡

図版６







石鏃類　（縮尺約1/1）

石鏃（１～４），石匙(5)

１．藤掛Ａ遺跡（4026）

２．丸尾Ｂ遺跡（1017）

５．祇園原表採（黒木政喜氏）

３．西牧遺跡　（4017）

４．赤松遺跡　（4028）

森　英雄氏所蔵

図版７

打製石器類

1．2．原口遺跡（4029）
3．竹淵Ａ遺跡　（2005）
4．新田原Ｂ遺跡（1007）
5．木戸遺跡　　（4023）
6．坂之上遺跡　（2011）
7．花園周辺出土（新田小所蔵）
8．大和池付近出土（新田小所蔵）

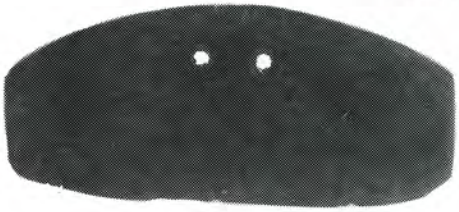
縮尺（1/2大）

図版8

1 有肩打製石斧

2 貽刃磨製石斧

3 石斧



4 石包丁

5 磨石

6 石錘

8 石剣

7 石錘

打製・磨製石器類

縮尺(1～7は1/2, 8は1/3)

1．7 向原遺跡 (1005)
2 鵜戸川遺跡 (1019)
3 花園遺跡 (1004)
4 祇園原周辺 (黒木政喜氏表採)
5 通山遺跡 (4024)
6 藤掛B遺跡 (4027)
8 向原遺跡 (松尾敏雄氏寄贈)(1005)

新富町の埋蔵文化財

遺跡詳細分布調査報告書

昭和57年 3 月31日

編集・発行 宮崎県新富町教育委員会

正　誤　表

例言…新名正垣 → 新名正坦

P 3…12行　住居地 → 住居跡

P 9…2010　城跡　散布地

　　2015　散布地　城跡

P10　4010　赤穴 → 赤禿（あかはげ）

P11　4038　備考欄　51－11 県 995

　　4039　種別欄　遺物包含層

P15　10行　黒坂 → 石坂

P17　1行　東北東と → 東北東に

P23　6行　空堀の → 空堀と

P41図版　貽刃磨製石斧 → 蛤刃